

参考 訪日外客数^(※注)と国産牛肉価格との関連の分析

1 牛部分肉セット価格と訪日外客数について

コロナウイルス感染症の世界的な拡散により、2019年まで増加してきた訪日外客数が、入国制限措置の導入により、2020年初頭から急激に減少しました。いわゆるインバウンドの激減により、国産の牛肉価格が影響を受けたとみられます。

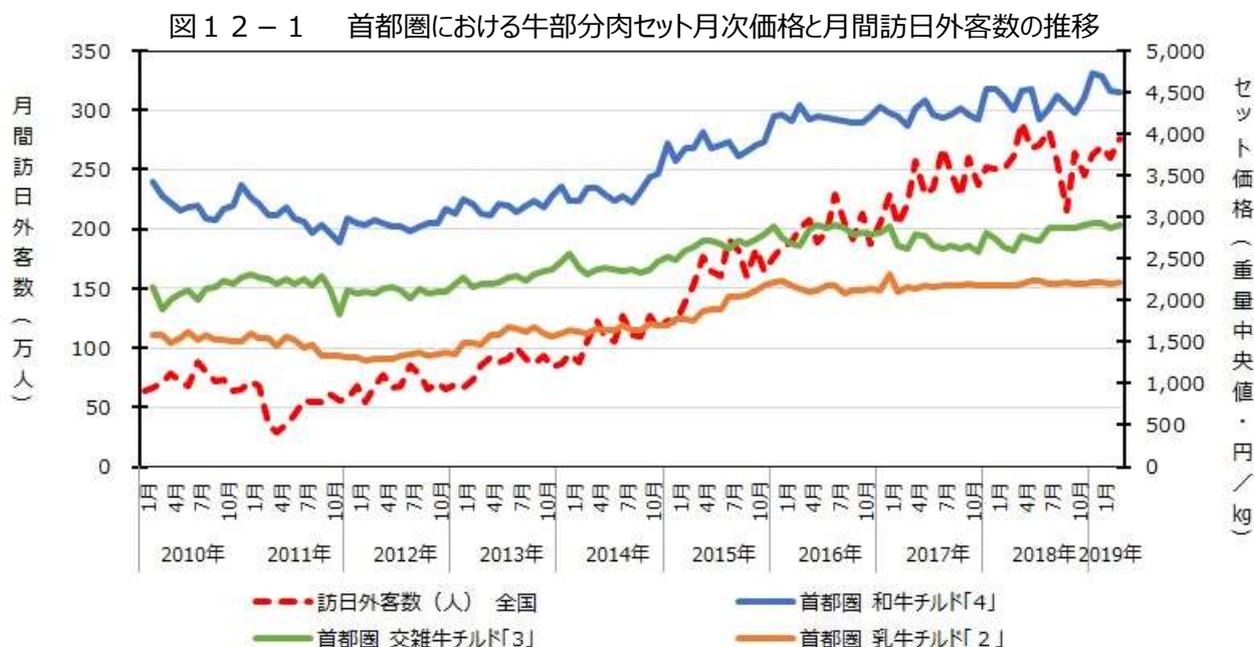


図12-1からわかるように、2014年4月ごろから月間訪日外客数が100万人を超える状態となり、以降2019年まで急激に増加してきました。

一方、2010年から2014年初めまで、「和牛」、「交雑」、「乳牛」の各々の部分肉「セット」価格は、概ね横ばいあるいは低下傾向でしたが、訪日外客数が大きく増加するとともに、価格は上昇傾向に転じています。

「和牛」と「乳牛」の「セット」価格について、訪日外客数が月間100万人程度までの期間とそれを明らかに超えた期間に区分して、価格と訪日外客数との相関及び回帰式を求めたものが、図12-2（和牛）、図12-3（乳牛）です。

「和牛」及び「乳牛」とも訪日外客数が少なかった期間前半に比べ、多くなった期間後半の方が両者の正の相関が高く、係数は「和牛」の方が「乳牛」より高くなっています。

こうした状況下で、入国制限措置が導入されたため、和牛の価格が大きな影響を受けました。

(※注)「訪日外客数」とは、法務省集計による出入国管理統計に基づき、日本政府観光局(JNTO)が算出したものである。訪日外客は、外国人正規入国者から、日本を主たる居住国とする永住者等の外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことである。駐在員やその家族、留学生等の入国者・再入国者は訪日外客に含まれる。なお、上記の訪日外客には、乗員は含まれない。

出典：日本政府観光局(JNTO)「年別 訪日外客数, 出国日本人数の推移」

図 1 2 - 2 首都圏：和牛チルド「4」部分肉セット月次価格と月間訪日外客数との相関

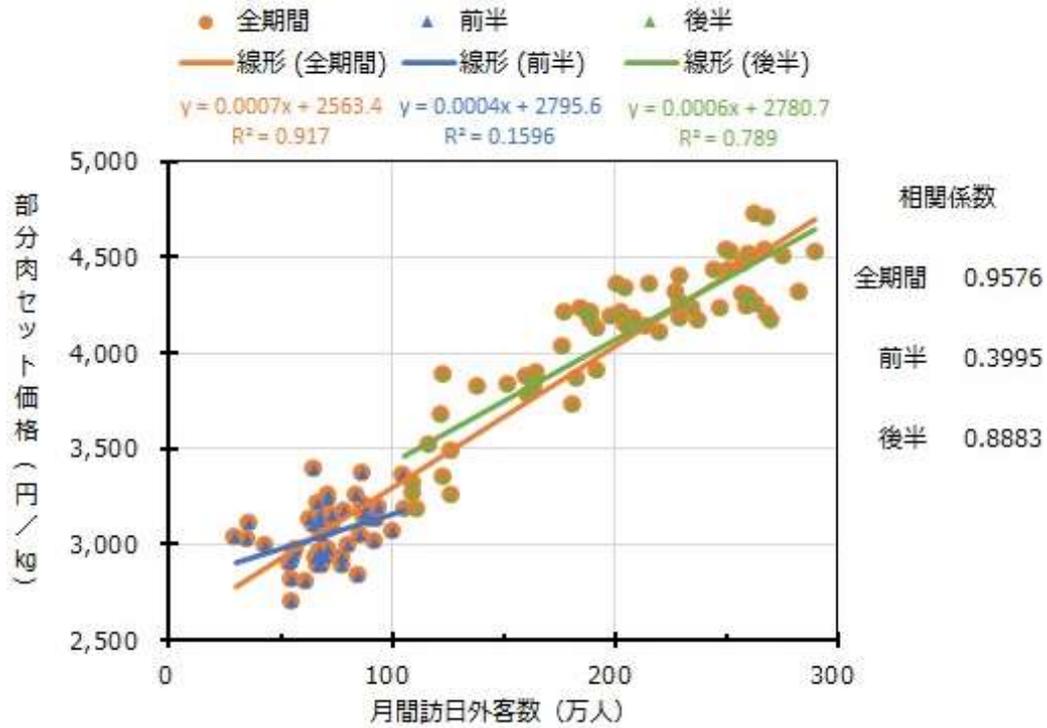
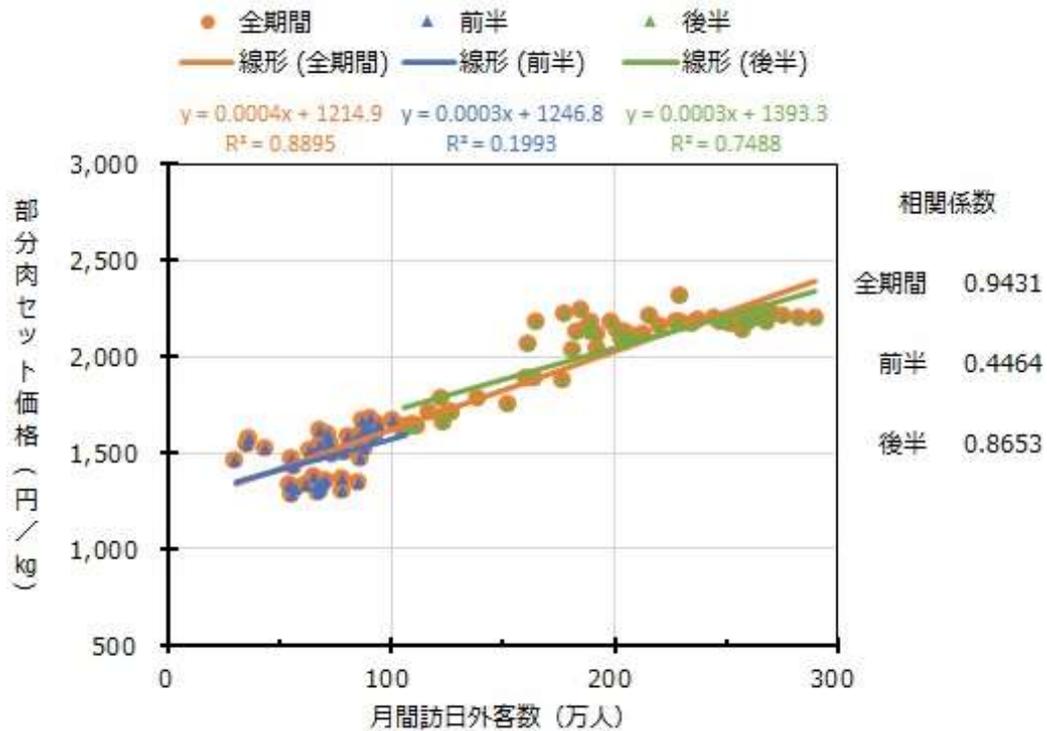


図 1 2 - 3 首都圏：乳牛チルド「2」部分肉セット月次価格と月間訪日外客数との相関



2 訪日外国人の訪日旅行に対する意識調査について

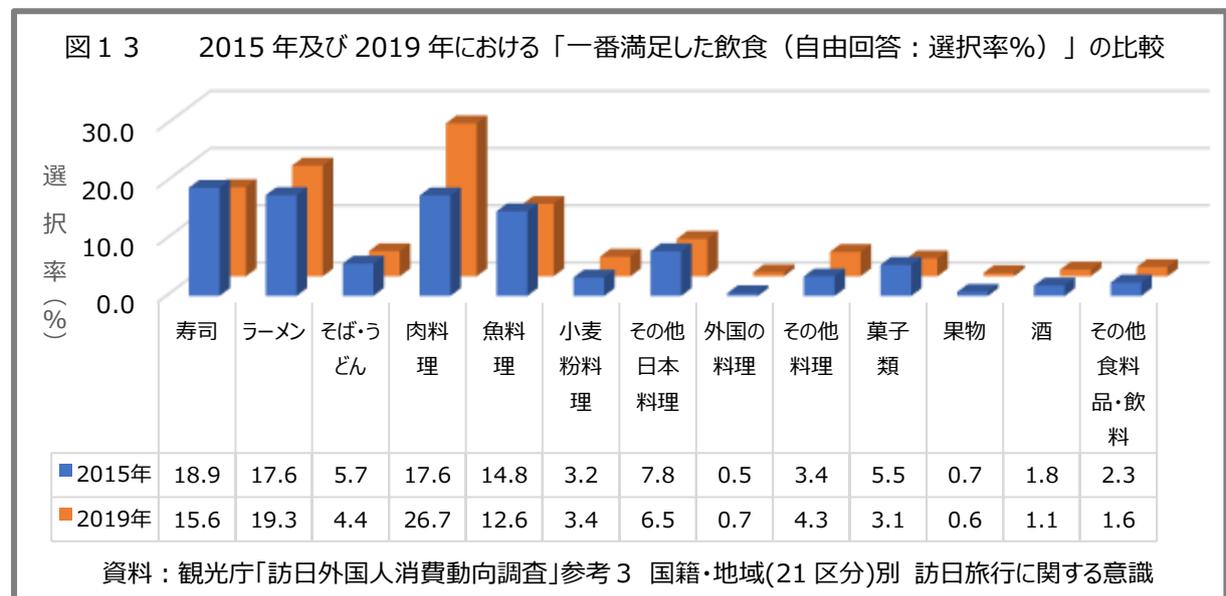
観光庁が行っている「訪日外国人消費動向調査」より、「訪日旅行に関する意識」に関して、2015年及び2019年について、一部抜粋し、まとめました。

表6-1 2015年及び2019年の「訪日旅行に関する意識」(選択率%)の比較

調査項目	回答	2015年	2019年
1 訪日前に期待していたこと(複数回答)	・日本食を食べること	69.7 (1位)	69.7 (1位)
2 訪日前に最も期待していたこと(単一回答)	・日本食を食べること	26.0 (1位)	27.6 (1位)
3 次回したいこと(複数回答)	・日本食を食べること	59.3 (1位)	57.6 (1位)
4 一番満足した飲食(自由回答)	・肉料理	17.6 (2位)	26.7 (1位)

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」参考3 国籍・地域(21区分)別 訪日旅行に関する意識

表6-1の調査項目4「一番満足した飲食(自由回答)」について、訪日外国人が回答したアンケート結果による詳細は、次の図1-3のようになりました。



訪日外国人が「一番満足した飲食」については、2015年では、首位が「寿司」、次が「ラーメン」と「肉料理」でしたが、2019年では「肉料理」が27%の首位で、2位の16%の「寿司」とは差が大きくなりました。また、以下の表6-2より、一人当たりの滞在日数が短くなった中で飲食費支出額が増加しており、より高価なものを飲食するようになっています。

このことから、訪日外国人数が増加してきたことで、高価な肉料理の需要が高まっていた中、インバウンドの激減により、食肉に対する需要が影響を受けたとみられます。

一部の高級焼き肉店では、外国人観光客がいなくなり売上が激減したと、業界関係者から聴取しました。

表6-2 2015年及び2019年における「訪日外国人消費動向調査」(人、円)の比較

「訪日外国人消費動向調査」	2015年	2019年
年間の訪日外客数	1,974万人	3,188万人
訪日外国人年間推定飲食費支出額	6433億円	1兆397億円
平均泊数(一人当たり)	10.2日	8.8日
日本滞在中の飲食費(購入者単価)	31,397円	32,136円

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より抜粋